

須賀川市立長沼中学校・平成29年度学校通信

長中だより



第13号（平成29年11月28日発行）発行者 校長 小貫 崇明

【12月の生活目標】

・2学期の学習と生活のまとめをしよう。
※健康管理に気を配ろう。
※冬休みの計画

○4校1園の交流②～長沼の子どもたちのために～

11月24日（金）の午後、長沼小学校において第2回となる4校1園連携事業の授業研修会を実施いたしました。長沼小の全学年の授業を長沼中と長沼東小の先生方が参観し、その後先日発行した小中一貫教育パンフレットをもとに、長沼の子どもの実態をふまえた共通実践事項や地域とともにある学校教育のあり方などについて話し合いを持ちました。



授業を受ける長沼小の子どもたちのキラキラと輝く目を見てみると、その学ぶ意欲をさらに伸ばせるよう、長沼中をもっともっと魅力ある学校にしなければと思いました。これからも、長沼地区4校1園（長沼幼稚園、長沼小、長沼東小、長沼中、長沼高校）の教師は、このような交流連携を積極的に進めてまいります。

○「本物」のトランペットの音をお聴きください！



12月2日（土）は登校日となっており、午後にPTA主催の教育講演会と各学年の保護者会を開催いたします。教育講演会には、講師として東京フィルハーモニー交響楽団・首席トランペット奏者の川田修一先生をお迎えし、「僕のトランペット人生 前編」と題したお話と演奏をお楽しみいただきます。川田先生は須賀川市出身で、須賀川一中時代には吹奏楽部に所属していましたが、その時の顧問教師が現在の長沼中校長でした。そのような縁もあり、今回忙しいスケジュールの中、わざわざ長沼中で演奏していただくことになりました。「本物」のトランペットの音をどうぞお楽しみください。なお、保護者でなくとも地域の皆様にもお聴きいただきたいので、当日13：40までに長沼中体育館へどうぞお出かけください。

○ふくしま駅伝に須賀川市代表として3年・阿部燎君が出場！！

11月19日（日）に開催された「ふくしま駅伝」に、本校3年・阿部燎君が第8区の走者として出場しました。第8区は、郡山市総合体育館から県立郡山北工業高校までの区間で、市街地ということもあり、内環状線の沿道からはたくさんの声援を受けました。スタート地点やゴール付近には、担任の西牧教諭はじめ多くの長沼中関係者も駆けつけ、声援を送っていました。阿部君は、期末テスト前日でしたが、須賀川市の総合8位に貢献したと思います。



○薬物乱用防止教室～自分の心と体、そして命を守るために～

11月16日(木)5校時に、学校薬剤師・室井淳先生をお迎えし、3年生を対象に薬物乱用防止教室を行いました。今回の防止教室では、講話の前に本校では恒例となっている、校長と室井先生による寸劇が行われました。寸劇では教材業者を装った薬物の売人(室井先生)が、善良な市民(校長・学習塾経営者という設定)に、話し巧みに近づき飲むと楽になるという薬を買わせてしまうところを演じました。その後の講演では、スライドやDVDを使って、危険な薬物に手を染めてしまうとどんなことになるか(身体や精神に及ぼす影響、犯罪にまで発展する事例など)をご説明いただきました。通常の薬も用法を間違えると大変なことになることも含め、薬物の怖さを十分認識することができました。



○救急処置教室～事故や災害時に救える命があります～



11月22日(水)、本校体育館において須賀川地方広域消防組合須賀川消防署・長沼分署から4名の消防士(救急救命士)の方々にいただき、2学年の「救急処置教室」を実施いたしました。

実習前にご指導いただいた話の中でとても印象に残ったのは、もし今、目の前に呼吸と心拍が停止した人がいたら、早い処置をすることで命を救える確率が早ければ早いほど高くなること、そしてその勇気と行動力が大切だというお話でした。4つのグループに分かれて2年生たちは、その話を念頭に人工呼吸やAEDを使った心肺蘇生法について真剣に学ぶことができました。さらに、命を守る最前線の現場に関わる消防士の方々の姿勢を感じることができたのも大きな収穫でした。

○3年生面接指導開始～今の自分を素直に表現しよう！～

11月上旬までに、3年生は自分の目指す進路についてほぼ方針が決定してきましたので、3学年では担任による受験校を想定した面接指導が始まりました。12月に入ると、他学年の先生や教頭・校長による面接指導も実施いたします。自分の将来の夢やその学校に入りたいという素直な自分を表現できるよう頑張ってください。

【連絡】12月2日(土)はお弁当の日、12月4日(月)は学校がお休みです。

★大切にしたい言葉(13)「他人に花を持たせよう。自分に花の香りが残る」

この言葉に最初に出会った時、日本の美学の頂点のような言葉だなと思いました。奥ゆかしさの中に、芯の強さを感じる言葉です。私は、「学校とは子どもに花を持たせるところ」だと考えています。ですから、この言葉を知って、教師は自己の理想だけに偏らず、同じ色でなくいろいろな色の花を咲かせる子どもたちを育て、そしてその香りに微笑む・・・そのほのかな花の香りこそ、教師のささやかな誇りとなるのです。

